

【研究分担課題名】日本在住 MSM の PrEP（曝露前予防）に関する意識や行動に関する研究

研究分担者：生島 嗣（特定非営利活動法人ふれいす東京・代表）

研究協力者：山口正純（一般財団法人博慈会 長寿リハビリセンター病院、ふれいす東京）、
三輪岳史（ふれいす東京）、大槻知子（ふれいす東京）

研究要旨

本分担研究では、PrEP に関する正しい情報発信のプラットフォームをコミュニティで整備することを目的に、MSM を対象としたアンケート調査を行った。PrEP の認知度や服用経験者の割合は昨年度研究より増加している可能性が示唆された。使用者は国内外からインターネットを介しての購入が約 8 割を占めていた。また、PrEP 使用に際して医師の診察を受けていない回答者の割合が約半数を占めていた。より安全に PrEP を提供するために、情報提供、利用しやすい見守り医療機関の整備が急務である。

A. 研究目的

本分担研究では、PrEP に関する正しい情報発信のプラットフォームをコミュニティで整備することを目的に、日本の MSM コミュニティを対象とした PrEP の認知度、利用意向性、コロナ禍における課題等に関する意識調査を実施した。

B. 研究方法

本研究では、昨年度の実験研究を参考に、MSM を対象とした無記名自記式アンケート調査を行った。アンケート調査は、MSM 向けの GPS 機能付き出会い系アプリの利用者を対象として実施した。

倫理的配慮

調査実施にあたり、ふれいす東京倫理委員会にて審査を受け承認を得た。

C. 研究結果

2021 年 2 月に実施した MSM の PrEP に関する実態調査を取りまとめた。MSM 向け出会い系アプリに広告出稿し、7,850 件の有効回答を得た。PrEP 使用経験者は全体の 8.5%であった。使用者は、東京を中心とした関東ブロック在住で 70.2%を占めたが、全国に存在していた。その 8 割が web 経由で薬剤を入手していた。そのうち、定期/不定期に医師の診察を受けているのが 49.7%であった。全回答のうち、月に支出可能な自己負担額は

5 千円までという回答が 55.6%を占めた。今後の使用意向は、認可されたら使用を希望が 68.5%であった。PrEP を使用した場合、コンドームを使わなくなるという回答者も 46.5%存在した。報告書とその概要を作成し、web から閲覧できるようにした。また、分担研究②の利用指針のもとに PrEP user 向けの利用者ガイドを策定し、公開した。

D. 考察

PrEP の使用経験者が同じサンプリング方法で、2018 年 10 月：2.2%であったのが、2021 年 3 月には 8.5%と急増していた。Web 購入者が 8 割を占め、その背景には薬剤のコストが大きく影響している。今後は検査や見守りを含めたクリニックベースの見守り体制の構築が急務だと思われる。

E. 結論

PrEP の情報発信のコンテンツを作成し、当事者向け、見守り医療機関向けに、web サイト上で情報発信を行った。

G. 研究発表 なし

H. 知的所有権の出願・取得状況（定を含む）
なし